

# 佐藤成広作 「命への渴き」

先生 この間の模擬試験の答案、返すぞ。(ガヤ)(以下、それぞれ呼ばれた者は返事)新井、池田、上村、遠藤、岡田、岡村、加藤、川島…。

高橋誠 おい、遠藤、どうだった？

遠藤 まあまああってとこかな。最近、やっと自分で思ってた点数と、ほんとの点数に差がなくなってきたからな。点数はともかくとしてさ。

誠 でも遠藤はいいよな。数学ができるからな。おれなんか、なんにもできるものが…。

先生 高橋。

誠 は、はい。

遠藤 おい、どうだった？

誠 ああ。

遠藤 高橋、「今度は自信ある」って言ってたじゃないか。見せてみろよ。

誠 おい、やめろよ。

遠藤 いいじゃないかよ。おれだって見せたんだぜ。お前だって見せなきゃ不公平だよ。

誠 見せたくないから見せないんだよ。ほっといてくれよ。

遠藤 ほほう。どうやら自分で予想してた点数より悪かったな？

誠 うるさいな。

先生 うるさいのはどっちだ！ 高橋、今回の試験でクラス最低はお前だぞ。少しは反省したらどうだ！ 隣の遠藤はクラスでトップだぞ。爪のアカでも煎じて飲ませてもらえ。

一同 (笑い)

先生 えーと、今回の模試の学校平均は5科目で50.3点だ。クラス平均は55.4点。まあまあだな。模試も今回で最後だ。学校もあと2週間で自由登校になる。そうなったらもう自分との闘いだぞ。周りの者がどれだけ勉強してるのか、全然分からなくなるんだから。だから、今回の結果が悪かった高橋なんかは、相当頑張んなきゃならんぞ。始めから三流校で我慢するなら、遊んでてもいいがな。分かったか、高橋？

誠 は、はい！ (モノローグ)先生も、なんでおればかり責めるんだよ。試験の時、たまたま調子悪かっただけじゃないか。

先生 先生は、何も全員に「一流大に入ってくれ」とは言わない。だけど、君たちの将来を考えると、今のうちに一生懸命勉強して、いい大学に入っておいたほうがいいぞ。あとになって悔やんでも遅いんだからな。いいか、君たちの幸せのために言ってるんだぞ。(FO)

誠(モノローグ) ヘン、勝手なこと言ったら。一流大学出たからって、幸せになれるってわけじゃないだろうに。

効果音 (終業のチャイム)

遠藤 先生もずいぶん頭に来てみたいだな。高橋も、自分の幸せのため、一生懸命勉強しなくちゃいかんな。

誠 うるせえな！ おれの前で二度とそんなこと言うんじゃないぞ。分かったか！(胸ぐらをつかむ)

遠藤 は、離せよ！(振りほどく)頭で勝てないと思ったら、今度は暴力で勝とうってのかい。暴力

じゃ、一流大学なんかに入れないぜ。

ナレーション

高橋誠は青春高校3年生。目前に大学入試が迫っているのに、模試の成績が思うように上がらず、精神的にかなり追いつめられていました。今日も、苦手の数学の38点を始め、50点前後の答案用紙を抱え、重い心で家に入ると――。

母

誠、ちょっとここに来て座りなさい！

誠

なんだよ。

母

親に向かって「なんだよ」とはなんですか。誠は長男なんですからね。しっかり勉強して、いい大学入ってもらわないとね。

誠

別に好きで長男になったわけじゃないもん。自分のことは自分で決めらあ。

母

誠！ 今日先生から電話があつてね。「もっと勉強するようにハッパをかけてください」って言われたんだよ。毎日1時間でも勉強してれば、習慣になるんだから。今みたいにテレビばかり見て勉強しないじゃ困りますよ。

誠

うるさいな。学校で怒られて家でも怒られたら、いる場所がないじゃないか。もうほっといてくれよ！

効果音

(階段を駆け上る音)

ナレーション

彼には、何か重い石で体中を押さえつけられているような毎日でした。いつそのこと、どこかへ消えてしまいたいとさえ思うのでした。次の日曜日――。

母

誠。日曜日なのにごどこ行くの？ 休みの日こそしっかり勉強しなきゃ、みんなに置いてかれるだけよ。一流大学に入るため…。

効果音

(階段を駆け下りてドアを出ていく開閉音)

効果音

(屋外。鳥のさえずり)

誠(モノローグ)

あー、やっと解放された。まったく、どこにいても「勉強しろ」だもん。いい加減に頭がヘンになっちゃうよ。一流の大学に入ったからって、一体何になるっていうんだ。そりゃ一流の大学出りゃいいところに就職できるだろうし、みんなからも一目置かれた存在にんれるかもしれないけど、それがいったい自分にとってどんな益となるんだ？ 親も先生も、自分たちの敷いたレールの上に無理やり乗っけようとしてる。僕の人生なのに、僕に選択の余地はない。ただ盲目的に従っているなんてイヤだ。一度しかない人生だもん。僕の要求も少しは聞き入れてほしい。

効果音

(公園で遊ぶ子供たちの声)

子供

すみません。ボール取ってください。(間)どうもありがとうございました。

誠(モノローグ)

僕もあんな時期があつたんだな。いつの間にか勉強ばかりになって。もっと大切なものがあつたんじゃないかな。

効果音

(遠くから賛美歌)

誠

こんなところに教会があつたのか。どうせ勉強がイヤで外へ出たんだから、時間つぶしに入ってみるか。

牧師

私たちは羊のように孤独の荒野をさまよっています。どこへ行くかも知らずに迷い歩いているのです。いったいなんのために生きているのでしょうか？ 毎日毎日やっていることに何か意味があるのでしょうか？ なぜ働かなければならないのですか？ なぜ勉強するのですか？ 食べるためですか？ しかしなぜ食べるのですか？ 生きているためですか？ しかしなぜ生きなければならぬのですか？ なぜ、なぜ、なぜ？ 私たちはこれらの大切な

問いに何一つ本当の答えを…。(FO)

誠(モノローグ) 理屈を言ってもしょうがないじゃないか。現実に勉強はイヤでもしなきゃいけないんだから。大学入試は間近だし。なんで勉強するのかなんて考え始めたらきりがないよ。そんなもん、考えるだけ無駄だよ。

牧師 (FI)「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けることができない。」と青書は言っています。「すべての人が」——これは、わたしが、あなたがということです。神様のもとを離れ、神様なしに生きる人間には、神様に喜ばれる、人生の目的をしっかりとつかんだ生き方ができなくなってしまったのです。あなたはどうですか？ 今自分がやっていることの意味が分からなくなって…。(FO)

ナレーション 誠は“ドキッ”としました。まるで今の自分のことを指して言われたような気がしたのです。知らず知らず、彼は耳をそばだてていました。

牧師 (FI) そんなあなたに、聖書は言うのです。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」神は私たちの罪を赦し、私たちをこの滅びの中から救い出してくださるために、その一人子イエス・キリストを与えて、十字架の上で私たちの身代わりに死なせてくださったのです。そして、このイエス・キリストを信じることによって、私たちは罪が赦され、滅びから救われるのです。無意味にさまよい歩く人生から、何の価値もなく無力に生きていく毎日から、あなたは救い出されるのです。

誠(モノローグ) キリスト教ってのは、道徳ばかり強制する宗教かと思ったら、そうでもないんだな。信じれば救われるのか。ほんとにそれだけで、今のこの灰色の毎日から抜け出せるんだろうか？ だけど、受験という現実是不変ならないじゃないか…。

牧師 でも、この聖書の言葉が教えているのは、ただそれだけではありません。「一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」永遠の命というのはなんですか？ “まことの命”と言い換えてもよいかもかもしれません。

誠(モノローグ) 「永遠の命」か。年取ってまでもずっと生きてるのか。だけど、おれにとっちゃ「永遠」より「今」なんだ！

牧師 それは「永遠の死」である滅びと全く反対のものです。それなら、この永遠の命の特徴というものは、いったいなんですか？ それは、単にいつまでも生き続けるということではありません。それは、今現在の“あふれる命”なのです。無意味な、無目的な人生と全く反対の、生き生きした毎日です。冬の間は枯れ木のように見える桜も、命があるなら、春になると美しく花を咲かせます。小さな小鳥も、命があれば喜ばしくさえずります。永遠の命を与えられると、私たちは平安に満ちた、生きていることの本当の喜びを経験することができます。

誠(モノローグ) 「生きていることの本当の喜び」…。そんなことって、ほんとにあるのかな。なんか、夢物語みたいだけど…。でも、もしあの先生の言ってることが本当だったら…。欲しい。おれはその“永遠の命”が欲しい！(多重エコー)

ナレーション 誠は、今まで気づかなかったもの、でも心の奥底で飢え渴くように求めていたものは、この命ではなかったのかと、その時思いました。一瞬、受験までの1か月の殺伐とした毎日のことが彼の胸をよぎりましたが、今、不思議にその重苦しさを突き抜けて、彼の心に響いてくる声を、彼は聴いていたのです。

聖書の言葉 (コリント人への手紙第二 5:17) だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られ

た者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

<完>